

令和8年度 兵庫県立西宮香風高等学校 入学式式辞

夙川の桜が満開となり、春の光がやわらかく差し込むこの佳き日に、PTA会長河本陽子様をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、令和8年度兵庫県立西宮香風高等学校前期入学式を挙行できますことは、私どもにとって大きな喜びでございます。高いところからではあります心より御礼を申し上げます。

215名の新入生のみなさん、ご入学おめでとうでございます。そして今日の日を誰よりも待ち望んでこられたご家族の皆様にも、心からお祝い申し上げます。みなさんがここに座っている姿を見ていると、一人一人が歩んできた道のりを想像せずにはいられません。期待や不安、新たな決意や少しの迷い、さまざまな思いを胸に、この日を迎えたことと思います。

本日、みなさんが入学された兵庫県立西宮香風高等学校は、平成13年に全国でも最先端の多部制単位制高等学校として、ここ西宮の地に誕生しました。桜の名所である夙川の河口に広がる香櫨園浜の風が香る「香」と、多部制単位制高校という弾力的な教育課程を生かした新しい学びの「風」が広がることを期待して、「西宮香風」と名づけられました。本年はその創立から26年目を迎え、すでに4千名近い卒業生が未来に向かって飛躍し、社会で活躍しています。

この季節になると、私は桜の成長の物語を思い出します。桜は、夏の暑い日にしっかりと花の芽をつくり、冬の初めにはいったん成長を止めて静かに眠りにつきます。そして、厳しい寒さを経験することで「休眠打破」と呼ばれる目覚めの時を迎え、春の暖かさとともに一気に花を咲かせます。鍛える時があり、休む時があり、思い通りにいかない冬を越えて、ようやく花開く。その姿は、これから高校生活を歩むみなさんと重なって見えます。人もまた、自分のペースで成長し、時には立ち止まりながら、自分らしい花を咲かせていくのだと思います。そして、どの花も同じではありません。咲く時期も、色も、形も違う。だからこそ美しいのです。西宮香風高校は、多部制単位制という柔軟な学びの仕組みのもと、働きながら学ぶ人、年齢も背景も異なる人、多様な夢を持つ人が共に学ぶ学校です。「多様な価値観を認め合い、他者への想像力を育む」ことを大切に、地域に開かれた学びの場として歩んできました。ここでは、みなさんの“違い”は弱点ではなく、むしろ学びを豊かにする大切な力です。異なる背景を持つ仲間と出会い、語り合い、時にはぶつかりながら、互いを理解していく。その経験こそが、香風高校で得られる大きな財産です。

さて、これからの社会は、人工知能 AI や技術革新、国際情勢の変化など、予測が難しい時代です。情報がありふれている世界において正しい情報をもとに客観的に考える力や、新しい価値を生み出す力、そして何より、人と人をつなぐ温かい心が求められます。そのために、私からみなさんに「センス・オブ・ワンダー」という言葉を贈りたいと思います。

これは、アメリカの海洋生物学者レイチェル・カーソンが著書の中で語った、世界の美しさや不思議さに素直に心を動かす感性のことです。カーソンは、幼い頃に母親と夜の海辺を歩いたとき、波が青白く光る“夜光虫”の神秘的な輝きに心を奪われた

体験を語っています。暗闇の中で波が光るその光景に、彼女は「世界にはまだ知らない不思議が満ちている」と感じました。この驚きが、後に彼女を海の研究へと導き、環境問題に向き合う原動力となりました。しかし、カーソンが伝えたかったのは単なる自然の美しさではありません。「驚き、気づく心を失わないことこそ、人が豊かに生きるための土台である」という深いメッセージが込められています。

驚きは、知識を“自分のもの”に変える力を持っています。「なぜだろう」「もっと知りたい」という気持ちは、人生を動かす学びへと変えていきます。そして、驚きは他者への想像力も育てます。自分とは違う価値観や背景を持つ人に出会ったとき、「この人はどんな景色を見てきたのだろう」と想像する心が、思いやりを生みます。香風高校での学びが、みなさんの中にある“驚く力”を育て、世界を広く深く見つめ、自分の未来を切り拓く視点を与えてくれることを願っています。

ただ、どんなに希望に満ちたスタートがきれたとしても、壁にぶつかることがあります。思うようにいかないつらい気持ちになる日もあると思います。そんなときはあきらめずに勇気を持って周りに相談してください。香風高校には、みなさんを支える先生方がいます。同じように悩み、乗り越えてきた先輩たちもいます。誰かがそっと手を差し伸べてくれる、温かい雰囲気がこの学校にはあります。安心して、自分の歩みで進んでください。立ち止まる日があっても、ゆっくりでもいいと思います。大切なのは、あきらめないことです。

そして、最後にもう一つ、大切にしてほしいことがあります。それは「自分の生命と、他者の生命を大切にする」ということです。みなさん一人ひとりの存在は、かけがえのないものです。どうか自分を大切に、周りの人を大切にしながら、これからの高校生活を過ごしてほしいと願っています。互いを思いやる心が、学校全体の温かさをつくり、みなさん自身を守る力にもなります。ご家族の皆様、本日より大切なお子様をお預かりいたします。卒業の日に「香風高校に入学してよかった」と思っただけのよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。どうぞ本校の教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。新入生のみなさんが、この香風高校で自分らしい花を咲かせ、未来へと力強く歩み出されることを心から願い、式辞といたします。

令和8年4月8日
兵庫県立西宮香風高等学校
校長 岡部 孝規